

国際交流団体活動紹介展

2月から4期に渡って、以下の団体の紹介展を開催しています。(新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的に中止となりました。)

期間	展示団体
①2020年2/22(土)～7/12(日) (3/2(月)～5/31(日)を除く)	メサフレンドシップ、グローバラキグループと支える会、茨城県日独文化協会、茨城県日中友好協会、水戸市日中友好協会
②2020年4/11(土)～5/24(日)	中止
③2020年6/13(土)～7/12(日)	サンコファ、茨城県ユニセフ協会
④2020年9/5(土)～10/4(日)	日本ベトナム友好協会茨城県連合会、水戸国際コミュニケーションズ、「茨城アジア教育基金」を支える会、AFS日本協会茨城水戸支部、WYCCI、スリランカとアジアの友の会、ラブニール、日本・バングラデシュ文化交流会
⑤2020年11/7(土)～12/13(日)	水戸ユネスコ協会、オルビス、水戸内原国際交流ふれあいの会

<事業報告>

○どうぞサロン～ゲストを迎えて～

(アメリカ編/イタリア編)(9月19日/11月28日)

各国出身のゲストを迎え、それぞれの国の魅力をお話しいただきました。



どうぞサロン

○ことばのひびきを楽しもう！

～世界のことばでよみきかせ～英語×日本語の巻(10月18日)

英語と日本語で同じ絵本の読み聞かせを行い、ことばの響きの違いを楽しみました。



国際教育講座

○外国人留学生のための防災講座(10月21日)

茨城大学の留学生を対象に、地震や台風などの災害の際の行動や避難の仕方、消火器の使い方などについて理解を深める講座を行いました。

○子どものための国際教育講座

(ハロウィン編/中国編)(10月24日/11月29日)

ハロウィンや中国をテーマに親子で楽しく学びました。

○なるほど！世界セミナー 東南アジアの宗教美術

～世界遺産アンコール遺跡群にみる祈りのかたち～
(11月1日)[ネット配信：11月15日]

東南アジア美術史に詳しい講師が、アンコール遺跡群に残る彫像や遺跡のレリーフ(浮彫)に込められたメッセージを易しく読み解きました。

<行事予定>

○ことばのひびきを楽しもう！～世界のことばでよみきかせ～イタリア語×日本語の巻(12月5日)

○子どものための国際教育講座(12月19日)

○なるほど！世界セミナー(12月20日)

○外国人市民のための防災講座(12月)

○多文化共生理解講座(2月28日)

○国際交流のつどい(2月～3月)

機関紙のコーナー、特集で取り上げて欲しい記事等、何でもお寄せください。

〒310-0024 水戸市備前町6-59 水戸市国際交流センター内
(公財)水戸市国際交流協会

Tel : 029-221-1800

Fax : 029-221-5793

H P : <https://mitoic.or.jp/>

E-mail : mcia@mito.ne.jp

開館時間：午前9時～午後9時

休館日：月曜日、祝日(土曜日を除く)、年末年始

機関紙へのご意見をお待ちしています。



Mito City International Association

第68号 2020.11

水戸市と重慶市が 友好交流都市提携20周年を迎えた

水戸市と中華人民共和国・重慶市は、2000(平成12)年6月に、友好交流都市提携合意書に調印し、友好交流都市となりました。以来、交流を続け、今年で20周年を迎えました。



両市の交流のきっかけは、1985(昭和60)年、筑波研究学園都市で開催された国際科学技術博覧会(科学万博・EXPO85)の際に、孫平化 中日友好協会副会長(当時)が水戸市を訪問したことに遡ります。その時に、孫氏から水戸市へ、当時改革開放政策により経済成長著しい重慶市との友好親善交流の提案がありました。重慶市からの訪中の誘いにより、翌1986(昭和61)年、佐川一信水戸市長(当時)を団長とする第1回水戸市中国行政視察友好訪中団が重慶市に派遣されました。

両市の友好が深まったのは、1993(平成5)年に水戸市で開催された全国都市緑化フェアでした。水戸市が重慶市側に重慶自然博物館所蔵の恐竜化石の出展を依頼したところ、重慶市人民政府や同博物館、そして中国国家文物局の全面的な協力を得ることができました。出展した「恐竜館」は多くの入場者を集め、第10回全国都市緑化フェアの成功に大きく寄与しました。

その後も相互の訪問団派遣など人的交流が進められるなか、1999(平成11)年に重慶市代表団が来水した際、

岡田広水戸市長(当時)との会談の中で、これまでの両市の交流の経緯を踏まえ、友好交流都市提携が提案されました。2000(平成12)年3月の水戸市議会定例会の本会議において、重慶市との友好交流都市の提携についての議案が全会一致で可決されたことを受け、6月に、岡田広水戸市長(当時)を団長とする重慶市友好交流都市調印使節団71名が重慶市を訪問し、友好交流都市提携合意書の調印が行われました。2000(平成12)年以来、これまでに、水戸市からは7回の訪問団の派遣、重慶市からは9回の訪問団の来水があり、両市において交流を深めています。

今年の新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に際しては、流行初期に重慶市で不足したマスクを水戸市から支援し、その後水戸市で医療物資が不足してくると、重慶市からマスク、防護服、体温計が寄贈されるなど、相互の協力関係も深まっています。

水戸市国際交流協会では、両市の友好交流都市提携20周年を記念して、記念誌の刊行や水戸市と重慶市を結んだオンラインでの交流事業、両市の紹介展などを予定しています。近い将来、新型コロナウイルス感染症が終息した後には、またお互いに訪問団を派遣し、交流を深められることを願っています。



日本語でつながる！～外国人市民のための日本語教室～

2019年に改正出入国管理法が施行され、日本ではさらなる外国人材の受入が可能となり、外国人労働者が増えるとともに、日本の観光需要の高まりも来訪外国人の増加につながりました。当センターに来館する外国人の多様化も進み、日本語や英語では対応できないこともしばしばあります。来訪外国人の中には、母国で日本語を勉強してから来る方もいますが、日本語が全くできず孤立してしまう場合もあります。そのため、外国人市民へのコミュニケーション支援がとても重要になります。

そこで当協会では、多文化共生推進に向けたさまざまな事業の中で、外国人市民向けの日本語学習支援に取り組んでいます。

＜市民ボランティアによる日本語教室の支援＞

当センターでは、市民ボランティアによる外国人市民のための日本語教室が開催されています。

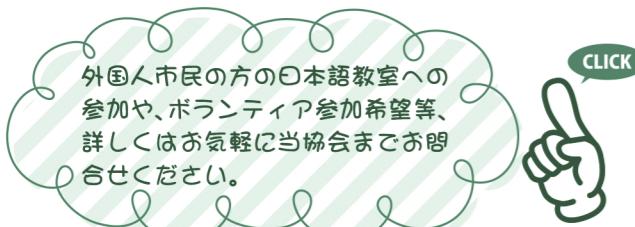
日本語教室の運営には、ボランティア人材の確保や人材育成など、さまざまな解決すべき課題があります。当協会では、ボランティア団体が活動しやすいように、部屋の貸出し（無料）や日本語教材の提供を行っています。

また、ボランティア養成講座の実施、ボランティア団体間の連携を図るための連絡会議の開催などのサポートをしています。

現在、ボランティアグループ5団体が火曜から土曜まで連日クラスを開き、日本語学習支援活動を行っています。

グループ	レベル
火 オルビス	初級、中級、会話、ひらがな、漢字
水 フレンドリーネイバーフッド メサフレンドシップ	初級、中級、中上級
	漢字、ひらがな、カタカナ、かんたんな日常会話
木 ソフィア	初級、初中級
金 メサフレンドシップ	初級、中級、中上級
土 ラブニール	初級、中級、上級

時間：10am-12pm(2 時間) 料金：¥300 ~ ¥500 / 1回



＜日本語プレ初級クラス＞

長年、市民ボランティアによる日本語教室が開催されてきましたが、外国人市民が増加し、日本語を学びたい方も多くなりつつあります。しかし、日本語ボランティアが不足するとともに人材育成が追いつかず、急激に増加する学習者に対応することが難しくなってきました。また、日本語が全くできない学習者には、豊富な技術や経験のあるプロか、それに相当するキャリアの持ち主の指導が必要であると考えられ、水戸市では早急な対応が求められています。

そうした状況にあって、市としては、外国人市民が少しでも生活上の困難を解消して暮らせるよう、行政としての支援が必要と考えました。

そこで、当協会では市との連携の下に各日本語ボランティア団体と協議しながら「水戸市モデル」となる独自の日本語学習支援体制の確立を目指しています。

今年11月下旬からは、「日本語プレ初級クラス」を開講しています。プロの日本語指導者の下、外国人市民が簡単な会話やひらがななどを学び、水戸市での生活に困らないよう支援するコースです。新型コロナウイルス感染症の影響により、外国人市民の水戸市への転入も少ない状況が続いているが、新年度からより多くのニーズに合わせて、クラスを開講していく予定です。

「プレ初級クラス」の学習者を募集しています。詳しくは当協会までお問い合わせください。



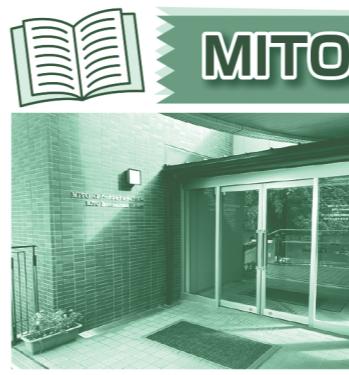
プレ初級クラス

生活ガイドが新しくなります！

水戸市内在住の外国人市民の生活を支援するために、「外国人市民のための生活ガイド」を作成しています。

日常生活に必要な情報を中心として水戸市の紹介、緊急時の対応、在留手続き、医療や福祉などの行政サービス、災害への備え、公共施設等の情報などを1冊にまとめました。ガイドブックには、やさしい日本語版、英語版、中国語版、韓国語版があります。2021年2月頃に刊行予定となっています。

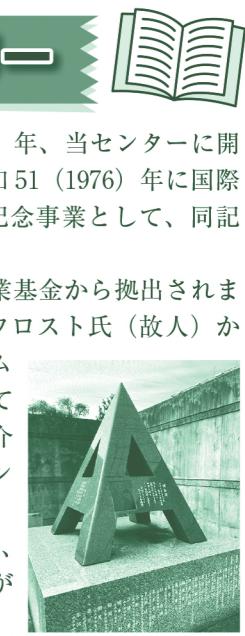
MITO インターナショナルライブラリー



MITO インターナショナルライブラリーは、平成28(2016)年、当センターに開設されました。この年は、水戸市が米国・アナハイム市と昭和51(1976)年に国際親善姉妹都市の盟約締結をしてから40周年にあたり、その記念事業として、同記念事業実行委員会が建設し水戸市に寄贈された施設です。

約7千万円の建設資金のうち6千万円は水戸市国際交流事業基金から拠出されました。この基金は、戦後、水戸に長年暮らしたケネス・D・フロスト氏(故人)からの寄付やアナハイム市との友好関係に長年尽力したアナハイム市名誉市長でもある幡谷祐一氏(故人)からの寄付が原資になっています。そこで館内は、図書コーナーの他に、幡谷氏の功績を紹介する記念コーナーが常設され、またフロスト氏についても、当センター正門横に顕彰碑が建立されています。

こうして誕生したMITO インターナショナルライブラリーには、現在1千冊を越える蔵書があり、静かな環境で読書を楽しむことができます。



おすすめライブラリー

今日は、ライブラリーに所蔵されているなかから、「おすすめの一冊」をご紹介します。

蔵書のうち、もっとも冊数の多いジャンルは日本文学の英訳本で100以上のタイトルがあります。『源氏物語』などの古典から夏目漱石や森鷗外、宮沢賢治、川端康成から現代の村上春樹、東野圭吾まで。江戸川乱歩の推理小説も。すでに日本語で読んでストーリーを知っている作品をエドワード・サイデンスティッカーやドナルド・キーンの名訳で英訳本を楽しむのも一興です。

英語の書籍では他に日本研究や日本の源氏物語絵巻や葛飾北斎、現代美術の草間彌生までの美術書や研究書など、海外における日本美術に対する関心の高さがうかがえる書籍があります。

蔵書の半数は日本語の書籍です。主に海外の研究者による日本学や比較文化、日本の歴史などの書籍があります。そのなかで注目すべきは、幕末から明治期にかけて日本を訪れた外交官や「お抱え外国人」と呼ばれた研究者による当時の日本についての著述です。

また

東洋文庫シリーズ(平凡社)でも、大森貝塚を発見したエドワード・S・モースの隨想『日本その日その日』や日本言語学の権威のバジル・ホール・チェンバレン著『日本奥地紀行』、ウィリアム・グリフィス『明治日本体験記』など、歴史的名著も、このライブラリーにそろっています。

建築家で日本建築の美を海外どころか日本人にも紹介したブルノ・タウトによる『日本の家屋と生活』(岩波書店)も一読の価値があります。エミール・ギメ『東京日光散策』と画家のフェリックス・レガメ『日本素描紀行』を合本とした雄松堂出版の『新異国叢書』の1冊は、ギメと明治時代の東京風俗や奇才の浮世絵師・河鍋暎斎との交流など実に興味深い記録です。

また、子ども向けの絵本も英語を中心に充実しており、普段、気軽に読むのも楽しいでしょう。また、多言語による「読み聞かせ」のイベント等もしていますので、ぜひご参加ください。そして英語に慣れ親しんできたら『風の谷のナウシカ』などポピュラーな宮崎駿の作品も英語版でそろっており、英語のリスニングアップにもなります。

今後も当センターでは、このMITO インターナショナルライブラリーの書籍の充実、この施設を使ったイベントを積極的に開催していきます。ライブラリーのご利用を心からお待ちしております。

MITO インターナショナルライブラリー 【開館時間 午前9時～午後5時 月曜、祝日は休館】

＜本の貸出について＞ *大型本、貴重本、交流都市関係と日本語学習関係は館内での閲覧のみです。

県央地域9市町村^{*}に住んでいる高校生以上の人 ※水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村

登録手続き：本人確認できる書類(運転免許証、住民票やパスポート)を持ってライブラリーに来てください。登録後「貸出券」を出します。

本を借りるとき：借りたい本と貸出券をライブラリーのカウンターに持ってきてください。

本の貸し出し冊数と期間：1人最大3冊まで2週間借りることができます。

貸出しには、
利用登録手続き
が必要です。